

「県立図書館に関するアンケート」単純集計結果 分析

【分析の視点】

神奈川県立図書館にはどのような利用者がいるのか？

【分析の概要】

- 利用頻度では、「今日初めて」は21.7%で、昨年度（26.3%）より減少したものの、新しい本館開館前の2021年度調査の16.5%より5.2ポイント増加しており、新しい本館への関心が初めての来館者増につながっていると考えられる。（第1表・第1図）（2021年度 第1表・第1図）
- 来館者の7割以上がリピーターであり、その傾向は2022年度に新しい本館が開館する前から変わっていないことから、定期的な利用が定着していることがうかがえる。（第1表・第1図）（2021年度 第1表・第1図）
- 「資料やサービスについての満足度」では、新しい本館開館前は「職員の対応」が最も高かったが、本館開館後は「施設・設備」の満足度が最も高く、次いで「職員の対応」に変化しており、新しい本館開館の効果の表れと考えられる。（第9表・第17図）（2021年度調査 第8表・第14図）
- 「資料やサービスについての満足度」において、「1Fのギャラリー展示」、「各階の本棚の展示」についての項目を新設したところ、「満足」「どちらかといえば満足」の選択率の合計が、「1Fのギャラリー展示」（67.2%）、「各階の本棚の展示」（73.8%）となり、ギャラリー展示を始め、各階の本棚の中に、所蔵資料の紹介や学びのきっかけづくりとして設置している「司書箱」、「シコウの窓」等の資料展示への満足度が高い結果となった。（第9表・第17図）
- 利用者の年代については、新しい本館開館前は60代以上の利用者が約4割を占めていたが、開館後は30代以下の利用者が増えていることが確認でき、これまで以上に幅広い年代に利用されるようになっている。（第15表・第41図）（2021年度調査 第12表・第28図）

1 利用状況について

- ・ 利用頻度について、全体の割合は前年度と変わらず、「月に数回」242人（33.9%）が最も多く、「今日初めて」が155人（21.7%）と続いた。ただし、前年度の割合と比較すると、「今日初めて」が（26.3%→21.7%）と減少し、「ほぼ毎日」と女性の「月に数回」を除いた項目が増加傾向にあり、男女ともに定期的な利用者が定着してきているのではないかとと思われる。（第1表・第1図）
- ・ 曜日については、全体の割合は前年度とかわらず、「平日」372人（52.1%）が多い。
- ・ 前年度と比較すると、「土日祝」（29.1%→32.9%）が約3.8ポイント増加しているが、こちらは、男性の「土日祝」利用が（26.3%→32.8%）と約6.5ポイント増加したことが影響している。
- ・ 男女別の曜日では、男性の「土日祝」利用が（26.3%→32.8%）と上がり、平日との差が縮んでいる。（第2表・第4図・第5図・第6図）。

2 来館目的について

- ・ 「個人的な利用」497人(69.6%)が最も多いのは、前年度と変わらず。ただし、「ライブラリーショップの利用」が(1.0%→2.5%)と約1.5ポイント増加し、前年度の「音楽・映像資料の利用」(2.4%)「展示・講座」(2.4%)を超えている。(第3表・第7図)
- ・ 利用している資料の種類としては「図書」が最も多く(32.6%)、次いで「新聞・雑誌」(11.9%)、「音楽・映像資料」(2.4%)は、前年度と変わらない傾向であったが、「図書」の内「(地域資料)」については(1.9%→3.5%)と約1.6ポイント増加した。(第3表・第7図)
- ・ 男女別の選択の傾向として、「個人的な利用」は男女とも高い割合を示している(男性71.8%、女性67.1%)。次いで「図書の利用」の選択率が高く、男女に大きな差はない(男性33.8%、女性31.8%)。(第3表・第8図)
- ・ 図書館資料の利用を目的とした項目「図書」「新聞雑誌」「音楽映像」については、比較的男性の選択率が高い。女性の選択率が高かったのは、「座席の利用」(男性18.7%、女性27.0%)「ライブラリーショップの利用」(男性1.8%、女性3.5%)である。(第3表・第8図)

3 県立図書館の選択理由について

- ・ 「静かな環境だから」(63.2%)が最も多く選択され、次いで「建物・雰囲気が気に入っているから」(57.1%)が選択されている傾向は前年度と変わらない。(第4表・第9図)
- ・ 男女の選択率の差が倍以上あった項目は「視聴覚資料を借りることができるから」(男性3.6%、女性1.4%)である。(第4表・第10図)
- ・ 女性は、「静かな環境だから」190人(65.7%)と「建物・雰囲気が気に入っているから」187人(64.7%)と、ほぼ同人数が選択している。(第4表・第10図)

4 利用場所について

- ・ 前年度と変わらず、各資料の閲覧スペースと「1F,2Fリフレッシュエリア」、「研究ブース・研究個室」が利用場所の上位を占めている。昨年度は次いで「ギャラリー展示」だったが、今年度は「学び⇄交流エリア・ディスカッションルーム」となった。選択率の前年からの変化が大きかった場所も、「学び⇄交流エリア・ディスカッションルーム」で(6.1%→9.1%)約3ポイント増加している。設問3「県立図書館の選択理由」でも、「交流スペースがあるから」(2.1%→4.1%)の選択率が伸びていることから、学び⇄交流エリアが、利用者に徐々に認知されて利用が増えてきているのかと考えられる。(第4表・第9図、第5表・第11図)
- ・ 男女別については、選択傾向に違いが見える。男性は、「社会科学資料」(31.3%)「歴史・かながわ資料」(23.8%)に続いて「1F, 2Fリフレッシュエリア」(21.0%)なのに対して、女性は「1F, 2Fリフレッシュエリア」(28.7%)、「社会科学資料」(23.9%)、「人文科学資料」(19.0%)が選択されていた。(第5表・第12図)

5 利用の成果(アウトカム)について

- ・ 前年度から「余暇を有意義に過ごした」(38.0%→43.1%)が約5ポイント増加したが、選択傾向に大きな変化はない。(第6表・第13図)
- ・ 男女別については、選択傾向は似ているが、「余暇を有意義に過ごした」は、男性(39.0%)女性(49.8%)となり、男性に比べ、女性の半数近くがこの項目を選択している。また、第3表「本日の来館目的」で「仕事上の利用」についてが、女性に比べ、男性の選択率が高い(女性6.6%、

男性 14.9%) ためか、「仕事に役立った」についても男性の選択率が高い(女性 10.4%、男性 17.7%)。(第3表、第6表・第14図)

6、7 満足度について

「全般的にみた県立図書館の満足度」について(第7表、第8表)

- ・ 「満足」が74.6%であり、前年の71.3%から約3.3ポイント増え、高い数値となった。「不満」は前年の0.3%から0.2%に減少した。「どちらかといえば満足」(24.2%)を合計すると98.8%以上となり、総じて満足度が高い結果となった。(第7表・第15図)
- ・ 男女別の回答においては、「満足」(男性73.5%、女性76.0%)が男女ともに70%を超えた結果となった。(第8表・第16図)

「資料やサービスについての満足度」について(第9表、第10表、第11表)

- ・ 「満足」が最も多く選択された項目は、「施設・設備」(77.3%)であり、前年度と同じ傾向である。次いで、「職員の対応」(60.5%)である。その他の項目についても、中央値がすべて4を示している。(第9表・第17図～第18図)
- ・ 「満足」「どちらかといえば満足」の選択率の合計が70%を超えた項目
昨年度と同じく、「施設・設備」(97.1%)、「開館日・開館時間」(84.3%)、「職員の対応」(83.2%)、「図書」(75.7%)の4項目である。これに、新設項目「各階の本棚の展示」(73.8%)が加わった。(第9表・第17図～第18図)
- ・ 「満足」「どちらかといえば満足」の選択率の合計が50%未満の項目
「音楽・映像資料」(34.3%)、「データベース」(35.0%)、「電子書籍」(26.4%)、「調査・相談」(37.6%)、「4Fのパフレット・チラシ」(45.1%)、「生涯学習相談」(23.7%)の6項目。「わからない」が50%を超えたのも上記6項目である。(第9表・第17図～第18図)
- ・ 男女別でみると、「満足」の選択率は「職員の対応」以外の12項目は女性が高い。(第10表・第11表・第19図～第33図)
- ・ 男性の回答の中央値は、「図書」と新設の2項目を除いた項目が4である。「満足」が40%を超えた項目は、「施設・設備」(77.2%)、「職員の対応」(60.3%)、「開館日・開館時間」(50.8%)、「図書」(40.9%)の4項目であった。(第10表・第19図、第21図～第33図)
- ・ 女性の回答の中央値は、すべて4である。「満足」が40%を超えた項目は、「施設・設備」(77.7%)、「職員の対応」(60.2%)、「開館日・開館時間」(56.7%)、「図書」(46.7%)、「各階の本棚の展示(新設)」(46.7%)、「新聞・雑誌」(43.3%)、「1Fのギャラリー展示(新設)」(42.1%)の7項目であった。(第11表・第20図～第33図)
- ・ 新設項目「1Fのギャラリー展示」、「各階の本棚の展示」については、「満足」「どちらかといえば満足」の選択率の合計が、「1Fのギャラリー展示」(67.2%)、「各階の本棚の展示」(73.8%)となり、満足度が高い結果となった。男女別の「満足」の数値で見ると、「1Fのギャラリー展示」(男性29.6%、女性42.1%)、「各階本棚の展示の満足度」(男性38.1%、女性46.7%)である。「1Fのギャラリー展示」について、アンケート実施当時の展示は「源氏物語を取り巻く女性たちと文化」だったため、女性の満足度が高い結果になったのではないかと考えられる。(第9表・第10表・第11表・第29図～第30図)

8 入退館時間について

- ・ 平日の入館については、昨年度と同じく「10時」95人（19.5%）が最も多かった。「13時」62人（12.8%）以降はなだらかに下落傾向となるが、昨年度に比べ「17時」（2.3%→3.7%）と「18時」（2.8%→3.7%）は微増している。（第12表・第34図～第35図）
- ・ 平日の退館時間については、昨年度と同じく「15時」（11.7%）以降は10%台となる。ただし、昨年度は「15時」37人（10.1%）から「16時」56人（15.3%）へと増加したのに対して、今年度は「15時」54人（11.7%）から「16時」52人（11.3%）と微減し、以降は緩やかに退館者数が増える結果となっている。（第12表・第34図～第35図）
- ・ 土日祝の入館は、昨年度から変化があり、「9時」（19.4%→25.4%）が約6ポイント増加し、早い時間帯での入館者が増えている（第13表・第36図～第37図）
- ・ 土日祝の退館については、「14時」までは10%以下であり、「15時」以降に10%を超える傾向や人数の推移も平日と近い数値となっているが、土日祝は17時に閉館となるためか、「17時」の数値が一気に高く（167名41.4%）になっている。（第13表・第36図～第37図）
- ・ 男女別の平日の入館時間に関しては、男性が「10時」に20%を超えるが、女性については20%を超えることがなく、男女ともに「13時」（男性13.3%、女性12.3%）をピークに減少している。一方、土日祝の入館時間は、「9時」「10時」ともに20%を超えている。また、男性は「13時」（13.8%）を境になだらかに減少しているが、女性は「14時」（14.3%）にピークを迎え、「15時」（4.2%）には約10.1ポイント急落している。（第12表・第13表・第38図・第39図）
- ・ 男女別の退館時間に関しては、「11時」と「13時」に女性の選択率が減少する傾向を含めて、平日と土日祝の人数や推移は近い数値となっている。（第12表・第13表・第38図・第39図）

9 回答者について

1) 性別

- ・ 男性390人（54.6%）、女性289人（40.5%）で、女性の構成比率が（38.4%→40.5%）と約2.1ポイント微増したが、前年度と同様に男性の割合が高い。（第14表・第40図）

2) 年代

- ・ 昨年度の最多は、「70代以上」105人（17.0%）だったが、今年度は「50代」119人（16.7%）であった。最も少ないのは、昨年度と同じく「30代」73人（10.2%）だった。（第15表・第41図）
- ・ 今年度は、「19歳以下」から「50代」まで、概ね選択率の増加がみられた。一方で「60代」（15.8%→13.9%）「70代以上」（17.0%→15.5%）は減少している。「19歳以下」から「40代」までの構成率は49.9%となり、全体の約半数が、40代以下の比較的若い層で占められるようになってきたことがわかる。（第15表・第41図）
- ・ 年代別の男女比を見ると、50代以下の差は小さく、「19歳以下」（男性40.7%、女性54.9%）と「40代」（男性45.5%、女性54.5%）は、女性の割合が多い。一方、60代以上になると男女比の乖離が大きくなり、「60代」（男性68.7%、女性31.3%）、「70代以上」（男性80.2%、女性18.9%）であった。（第16表・第42図）

3) 仕事

- ・ 昨年度と同じく「フルタイム勤務（会社員・公務員）」228人（31.9%）が最も多く、「その他」を除いて、「専業主婦・主夫」46人（6.4%）が最も少なかった。（第17表・第43図）
- ・ 男女別でみると、男性が女性の倍以上あった項目は、「無職・退職」（男性21.3%、女性8.3%）、女性が男性の倍以上あった項目は「専業主婦・主夫」（男性0.5%、女性14.9%）、「パート・アルバイト」（男性5.6%、女性15.9%）である。（第17表・第44図）

4) 住所

- ・ 昨年度と比べ、「県内」（90.1%→88.5%）は約1.6ポイント減少し、「県外」（5.3%→6.0%）が増加した。（第18表・第45図）
- ・ 県内在住者の内訳を見ると、「横浜市」（86.2%→87.7%）が約1.5ポイント増え、「横浜市のうち当館近隣地区」（60.5%→63.9%）も増えている。横浜市外の内訳としては、「湘南地区」21人（3.3%）次いで「川崎市」19人（3.0%）と、各地区15人前後の回答数だが、「県西地区」については、昨年度の4人（0.7%）を下回り、1人（0.2%）となった。（第19表・第46図）
- ・ 横浜市を除く県内内訳を男女別でみると、「川崎市」（男性13人、女性6人）については差があるが、他地区については、大きな差はみられなかった。（第19表）